



「読書旬間」 校長講話より 11/14

読書旬間にちなんでお話をします。今日は自分の好きなお話をしたいと思います。道德の資料にあります、題名は「一冊のノート」です。

『一冊のノート』より

「お兄ちゃん、おばあちゃんのことだけど、この頃かなり物忘れが激しくなったと思わない。僕に何度も同じことを聞くんだよ。」

「うん、今までのおばあちゃんとは別人のように見えるよ。いつも自分の眼鏡や財布を探してるし、自分が思い違いをしているのに、自分のせいではないと我を張るようになった。おばあちゃんのことでは、お母さん、かなりまいつているみたいだよ。」

弟の隆とそんな会話を交わした翌朝の出来事であった。

「お母さん、僕の数学の問題集、どこかで見なかった。」

「さあ、見かけなかったけど。」

「おかしいな。おととい、この部屋で勉強した後、確かにテレビの上に置いといたのになあ。」

学校へ出かける時間が迫っていたので、僕は段々いらいらして、祖母に言った。

「おばあちゃん、また、どこかへ片づけてしまったんじゃないの。」

「私は、何もしていませんよ。」

そう答えながらも、祖母は、部屋のあちこちを探していた。母も隆も問題集を探し始めた。しばらくして、隆が隣の部屋から誇らしげに問題集を持ってきた。

「あつたよ、あつたよ。押入れの新聞入れに、昨日の新聞と一緒に入っていたよ。」

「やっぱり、おばあちゃんのせいじゃないか。」

「どうして、いつも私のせいにするの。」

祖母は、責任が自分に押し付けられたので、さも、不満そうに答えた。

「そうよ、何でもおばあちゃんのせいにするのはよくないわ。」

母が僕をたしなめるように言った。僕は、むっとして声を荒げて言い返した。

「何言ってるんだよ。昨日、この部屋を掃除したのはおばあちゃんじゃないか。新聞と一緒に問題集も押入れにかたづけ

たんだろ。もっと考えてくれよな。」

「そうだよ。お兄ちゃんの言うとおりだよ。この前、僕の帽子がなくなったのも、おばあちゃんのせいだったじゃないか。」

「しっかりしてよ、おばあちゃん。近頃、だいぶぼけてるよ。僕ら迷惑してるんだ。今も隆が問題集を見つけなかったら、遅刻してしまうところじゃないか。」

いつも被害にあっている僕と隆は、一斉に祖母を非難した。祖母は、悲しそうな顔をして、僕と隆を玄関まで見送った。

学校から帰ると、祖母は小さな机に向かって何かを書き込んでいた。僕には、そのときの祖母の寂しそうな姿が、なぜかいつまでも目に焼き付いて離れなかった。

(中略)

「ただいま。」

祖母の声を聞くと同時に、僕は玄関へ飛び出した。祖母は、大きな買い物籠を腕にぶら下げて、汗を拭きながら入ってきた。

「ああ、暑かった。さつき途中で会った二人は・・・。」

「おばあちゃん、何だよ、その変な格好は。何のためにふらふら外を出歩いているんだよ。」

僕は、問い詰めるような激しい口調で祖母の話の遮った。

「何をそんなに怒っているの。買い物に行ってきたことぐらい見れば分かるでしょ。私が行かなかつたら誰がするの。」

「そんなことを言っているんじゃない。みんながおばあちゃんのことを笑ってるよ。かっこ悪いじゃないか。」

「そうして、みんなで私をばかにしなさい。一体どこがおかしいって言うの。誰だって年を取ればしわもできれば白髪頭にもなってしまうものよ。」

祖母の言葉は、怒りと悲しみで震えていた。

「そうじゃないんだ。大体こんな古ぼけた買い物籠を持って歩かないでくれよ。」

(中略)

その後も、祖母はじっとしていることなく家の内外の掃除や片づけに動き回った。そして、物がなくなる回数は益々多くなった。

ある日、友達からの電話を受けた祖母が、伝言を忘れたため、僕は友達との約束を破ってしまった。父に話した後怒られないようにしていた僕も、このときばかりは激しく祖母をののしった。

それから一週間余り過ぎたある日、探し物をしていた僕は引出しの中の一冊の手あかに汚れたノートを見つけた。何だろうと開けてみると……。

それは、祖母が少し震えた筆致で、日頃感じたことなどを日記風書きつづったものであった。見てはいけなそうと思いつつ、つい引き込まれてしまった。最初のページは、物忘れが目立ち始めた二年ほど前の日付になっていた。そこには、自分でも記憶がどうにもならないもどかしさやこれから先どうなるのかという不安などが、切々と書き込まれていた。普段の活動的な祖母の姿からは想像できないものであった。しかし、そのような苦悩の中にも、家族と共に幸せな日々を過ごせることへの感謝の気持ちが行間にあふれていた。

『おむつを取り替えていた孫が、今では立派な中学生になりました。孫が成長した分だけ、私は年をとりました。記憶も段々弱くなってしまい、今朝も孫にしかられてしまいました。自分では気づいていないけれど、他にも迷惑をかけているのだろうか。自分では一生懸命やっているつもりなのに……。あと十年、いや、せめてあと五年、何とか孫たちの面倒を見なければ、まだまだ老け込むわけにはいかないぞ。しっかりしろ。しっかりしろ。ばあさんや。』

それから先は、ページを繰るごとに少しずつ字が乱れてきて、判読もできなくなってしまった。最後の空白のページに、ぽつんとにじんだインクの跡を見たとき、僕はもういたたまれなくなって、外に出た。

庭の片隅でかがみこんで草取りをしている祖母の姿が目に入った。夕焼けの光の中で祖母の背中は幾分小さくなったように見えた。僕は、黙って祖母と並んで草取りを始めた。

「おばあちゃん、きれいになったね。」
祖母はにっこりとうなずいた。

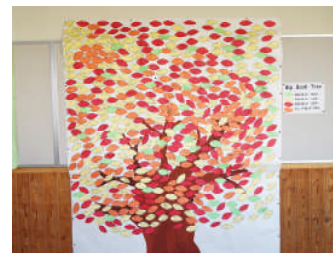
この先、この僕はどうなるのかな。もし、この日記を読まなかったらどうなっていたのかな。

家族というのはどういうものなのかということを考えるいいお話だと思います。

読書旬間で皆さんもいい本に出会えるといいなと思います。

BIG BOOK TREE

読書旬間の取組
みの一つとして図
書館前に登場した
「BIG BOOK
TREE」



生徒たち、そして
先生方も自分の

お気に入りの本を1枚の葉に書き、貼っていきます。始まってすぐにたくさんの葉が貼られました。これを見て友だちはどんな本に興味を持っているのか知ったり、自分で本を選ぶときの参考にしたりしながら、ますます世界を広げているといいですね。

生徒会引継ぎ

生徒会も2年生に引き継いでいく時期です。11月29日には生徒総会が行われました。3年生が一生懸命活動してきた活動の承認と来年度役員の紹介がありました。3年生の残してくれた実績を来年度に引き継ぐ役員を紹介します。

生徒会長 大浦日南乃

副会長 大竹悠斗 小林さくら

会計 出川瑠惟 山田結楽

議長 藤井莉音 土屋潤一郎

書記 尾澤優吟 松橋暖

委員長 副委員長

放送 清原愛琴 児玉岳竜

生活 豊田航平 小林愛実

学芸 石澤 凌 中山万葉

清美 黒瀬 慎 小林愛佳

緑化 高山和真 柴本虹葉

図書 清水明佳 牧口大城

厚生 中井智明 小林南乃花

運動 伊東樹生 近藤舞佳

給食 小松倅芽 小林陽遥

保健 小林侑誉 黒崎綾乃

奉仕 月岡小春 江尻俊介

編集 田中笙奈 小林美咲

人権 阿部なつ美 小野詩織

蒼龍 山室遥斗 竹内 涼

役員だけでなく、1～3年生みんなで盛り上げていく生徒会にしていきましょう。

美術科より ～入選多数～

【美術科】

○今を生きる子どもの絵

中央入選 池田恭花 滝澤慎之介

地方入選 村田佳奈美 佐野南実 酒井結名

○長野県児童生徒美術展「美術の部」

【絵画の部】

中央入選 倉科摩衣 竹内蒼依 金丸敦樹

小橋梨乃 今清水彩

【デザインの部】

中央入選 中山万葉

地方入選 渡辺真央 清原愛琴 小林さくら

【立体の部】 小林脩人 徳竹晃也

○中野・下高井教育会展覧会 入選

【絵画の部】 酒井健太 成田光彩 樗沢奈々保

湯本小梅 阿部文哉 篠田未夢 星野杏樹

小林弓珠 大浦綾乃 村上七彩 小野澤生吹

堀米莉彩 田中裕梨 小林美月 小川涼菜

中村日香里 中山泰希 山田光太郎 島山心良

小林奈津 山田光桜 小崎奏 笠原古都実

【立体の部】 田中笙奈 田中瑞基 下田ほのか

池田咲音

【デザインの部】 児玉晴輝 藤井莉音 柴本虹葉

青木成未 大浦日南乃

○アップルちゃんカレンダー

【絵画】 荻原はな 上原紗彩 笠原茉希

湯本愛未 清原愛琴

【詩】 村上璃奈 村石美由紀

○標語入り防犯ポスター

最優秀賞 小林陽遥

優秀賞 岩下大介 高橋佑輔

佳作 村上璃奈 松橋暖 山崎あかり

土屋潤一郎 小橋梨乃 斉藤海都

○防犯ポスター

県(銅賞) 永沢星夏

中高入選 佐藤煌太 関亜梨沙 春原里紗子

海野翼 小林壺生 矢島亘 小根沢志奈

大浦日南乃

○明るい選挙啓発ポスター

宮澤花乃香 佐藤花音 清水暁

○JA 共済交通安全ポスターコンクール

銅賞 渡邊菜生

入選 関野日菜莉 荻原瑠華 山田優汰

社会科より「税についての作文」

長野県納税貯蓄組合連合会長賞 小崎奏

信濃中野法人会長賞 坂本すず

関東信越税理士会

長野県支部連合会長賞 竹内蒼依

信濃中野支部長賞 倉科摩衣

国語科より 習字・作文 入選者

○県児童生徒美術展 【習字の部】

笠原古都実 大野紗輝 松橋暖

○中野下高井教育会展覧会 入選 【習字の部】

徳竹航之介 山岸結夢 小林舞香 松尾允慈

江尻俊介 小野未央 岩崎沙夏 田端彩音

篠田未夢 田川彩音 小林愛佳 阿部美月

小林さくら 吉谷美紅 清原愛琴 関日向

渡邊小花 田中笙奈

○「小さな親切」運動作文コンクール

優秀賞 茂手木伸伍

銀賞 関野日菜莉 豊田航平

銅賞 松橋暖 小松剛倅芽 小林愛佳

佳作 町田和隆 小野詩織 小橋梨乃

小林あかり

○ざぶん賞コンクール

関凌 竹内涼

○中学生作文コンクール

都道府県別賞3等 岡澤結璃

○少年の主張長野県大会

北信地区優良賞 大竹悠斗

非違行為防止に向けて

本校職員は定期的に「非違行為防止研修」を行っています。
今年度は県内で飲酒運転による事故も起きていることを鑑み、
11月には飲酒運転についての研修を行いました。
研修では小グループで、事例をもとに当事者はもちろん同僚としてどう対処すべきだったのかを話し合いました。
☆飲み会に車で向かうこと自体が問題だ。
☆当事者の判断力に問題がある。
☆代行等の利用をするべき。
☆家族に送迎を頼めるよう、普段からの家族サービスも大事。
などなど多くの意見が出され、南宮中から非違行為を出さない決意を新たにしました。
研修のほかにも酒宴の折には帰りの方法、最終確認者の確認等行っています。